

中学校 家庭

中学校 特別支援学級（家庭）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

1 食生活について、次の（１）、（２）の問いに答えよ。

（１）下の表は、「炊き込み飯、いわしのかば焼き、ポテトサラダ」の材料と分量（１人分）を示したものである。次のア～オの問いに答えよ。

炊き込み飯（１人分：g）		いわしのかば焼き（１人分：g）		ポテトサラダ（１人分：g）	
米	60	いわし	約160(中2尾)	じゃがいも	70(約1/2個)
水	78	かたくり粉	6	塩	0.4
しょう油	6	あさつき	5	こしょう	少々
酒	6	サラダ油	6	酢	2.5
油揚げ	2	砂糖	9	人参	7
鶏肉（もも）	10	しょう油	12	きゅうり	15
人参	5	みりん	9	たまねぎ	10
干ししいたけ	0.5	酒	6	卵	20
こんにゃく	5			塩	0.2
ごぼう	5			こしょう	少々
さやいんげん	3			マヨネーズ	12
				パセリ	0.3
				サラダ菜	7(1枚)

ア 油揚げは、熱湯をかけたり湯通しをして「油抜き」の下ごしらえを行う。「油抜き」をする理由を２つ記せ。

イ ジャがいもは水からゆでる。その目的を加熱による変化に触れながら簡潔に記せ。

ウ A～Eの食品は６つの食品群による分類では何群になるか、１～６の数字で記せ。

A) 油揚げ B) 干ししいたけ C) さやいんげん D) ジャがいも E) マヨネーズ

エ この分量で５人分の炊き込み飯を作る場合、準備するごぼうの量を算出せよ。ただし、ごぼうの廃棄率は10%とする。また、計算式も解答欄に記せ。（小数第１位を四捨五入し、求めること）

オ いわしの手開きについて、A～Gを適切な順番に並べ、記号で記せ。

- A) 腹に切り込みを入れる
- B) 中骨の上に両親指を入れ、指をすべらせて身を開く
- C) 中骨を尾の際で折り、身を押さえながら、引っ張って取る
- D) はらわたの残りや血を流す
- E) 腹骨をそぎ取る
- F) 胸びれの下に包丁を入れ、頭を切り落とす
- G) 包丁の先ではらわたをかき出す

(2) 食品の表示について、次のア～ウの問いに答えよ。

ア 次の の文章は、食品表示法（平成27年4月1日施行）の第3条基本理念を一部抜粋したものである。空欄A～Dに入る適切な言葉を記せ。

販売の用に供する食品に関する表示の適正を確保するための施策は、消費者基本法（昭和43年法律第78号）第二条第一項に規定する消費者政策の一環として、消費者の（ A ）及び自主的かつ合理的な（ B ）の機会が確保され、並びに消費者に対し必要な（ C ）が提供されることが消費者の権利であることを尊重するとともに、消費者が自らの利益の擁護及び増進のため自主的かつ合理的に行動することができるよう消費者の（ D ）を支援することを基本として講ぜられなければならない。

イ 下の表示について、次のA、Bの問いに答えよ。

名 称	ロースハム（スライス）
原材料名	豚ロース肉、水あめ、食塩、① <u>リン酸塩（Na）</u> 、調味料（アミノ酸） 酸化防止剤（ビタミンC）、発色剤（亜硝酸Na）
内 容 量	〇〇g
② <u>賞味期限</u>	表面上部に記載
保存方法	10℃以下で保存して下さい
製 造 者	〇〇株式会社 〇〇県〇〇市〇〇町〇－〇

A 下線部①の目的と効果を a～eの中から1つ選び、記号で答えよ。

【目的と効果】

- a) ハムに味をつける
- b) 食品の酸化や劣化を防いで品質を保つ
- c) ハムの色を鮮やかにする
- d) カビや細菌などの発育を抑制する
- e) 肉の保水性を高めて肉片同士がくっつきやすくする

B 下線部②の意味として適切なものを a～d の中から全て選び、記号で答えよ。

- a) 定められた方法により保存した場合において、腐敗、変敗その他の品質（状態）の劣化に伴い安全性を欠くこととなる恐れがないと認められる期限を示す年月日
- b) 定められた方法により保存した場合において、期待される全ての品質の保持が十分に可能であると認められる期限を示す年月日
- c) この期限を過ぎた食品であっても、必ずしも食べられなくなるわけではないので、食品が食べられるかどうかについては、消費者が個別に判断する必要がある
- d) この期限を過ぎた食品は食べないようにする

ウ 食物アレルギー症状を引き起こすことが明らかになった食品のうち、特に発症数、重篤度が高いため、特定原材料として表示を義務付けられている 7 品目について、卵、乳以外の 5 つの品目の名称を記せ。

2 消費生活と環境について、次の（１）～（３）の問いに答えよ。

（１）下の昭和45（1970）年、平成23（2011）年の「家計の消費支出構造（二人以上の世帯）」のグラフを見て、次のア、イの問いに答えよ。

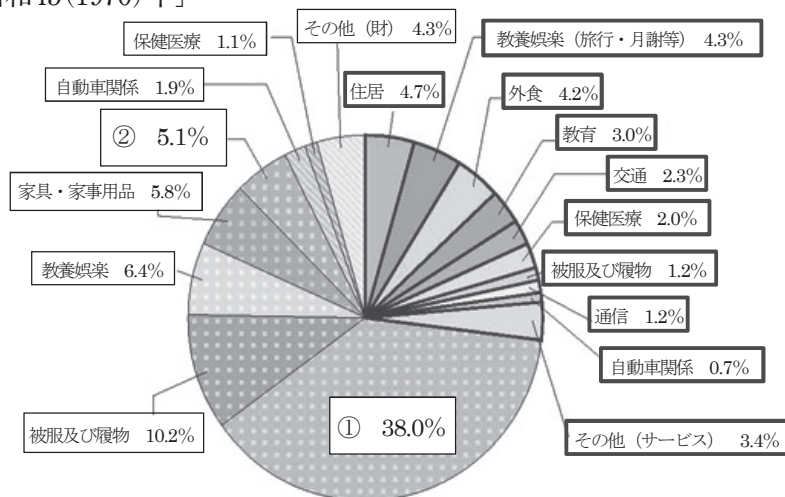
ア ①、②にあてはまる費目名を答えよ。

イ 2つのグラフを比較して、家計の消費支出構造の変化の特徴について、次の4つの語句をすべて用いて説明せよ。

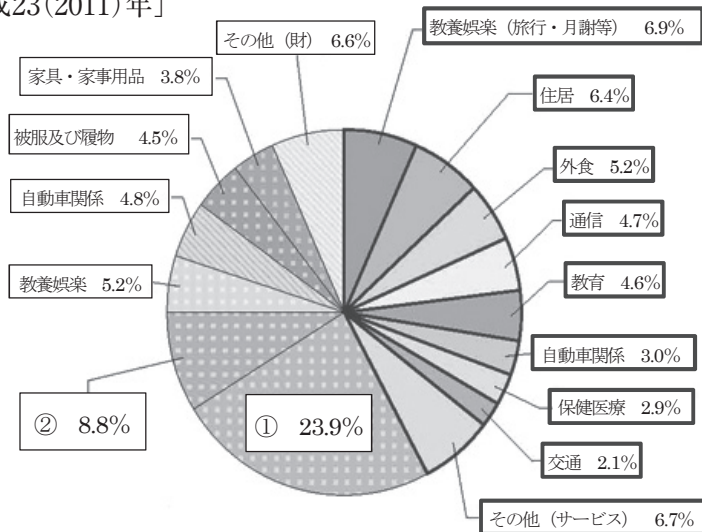
対サービス支出 ・ 対財支出 ・ 情報化 ・ サービス化

家計の消費支出構造の変化(二人以上の世帯)

[昭和45(1970)年]



[平成23(2011)年]



(備考) 1. 総務省「家計調査」により作成。二人以上の世帯（農林漁家世帯を除く）・全世帯の一世帯当たり支出の構成比。

2. ☐ は、対サービス支出。 ☐ は、対財支出。

消費者庁 消費者問題及び消費者政策に関する報告(2009～2011年度)の資料より作成

(2) インターネットをめぐる消費者トラブルの1つである「ワンクリック請求」によるトラブルに巻き込まれないために気を付けることを生徒に説明する。その内容を簡潔に3つ述べよ。

(3) 次のア～ウは、環境に関する表示である。それぞれの説明として正しいものを下のA～Eから選び記号で記せ。

ア



イ



ウ



- A 二酸化炭素排出量削減のために、古紙を再利用している製品であることを示すマーク。
- B 適切な森林管理が行われていることを認証する「森林管理の認証」と森林管理の認証を受けた森林からの木材・木材製品であることを認証する「加工・流通過程の管理の認証」の2種類の認証からなる制度を示すマーク。
- C 間伐材を用いた製品の普及啓発のために、間伐材製品につけられるマーク。
- D 地球温暖化に関する環境負荷を定量的に算定、表示し、「見える化」された情報を用いて、事業者、消費者が共により低炭素な社会へ自ら変革していくことをめざすことを示すマーク。
- E 環境負荷の少ないグリーン電力が使用されていることを消費者等に明示するためのマーク。

3

保育及び家族・家庭生活について、次の(1)～(4)の問いに答えよ。

(1) 保育所と幼稚園の設置について、空欄ア～カに入る適切な語句や数字を記せ。

	保育所	幼稚園
根拠法令	(ア)	(イ)
対象児	(ウ) 歳～就学前の 保育に欠ける児童	満 (エ) 歳～就学前の幼児
保育時間	1日 (オ) 時間を原則 ※延長保育、一時保育を実施	1日 (カ) 時間を標準 ※預かり保育を実施

(2) 次の は、「認定こども園」について、述べたものである。空欄ア～エにあてはまる語句として最も適切なものを下の語群A～Jより選び、記号で答えよ。

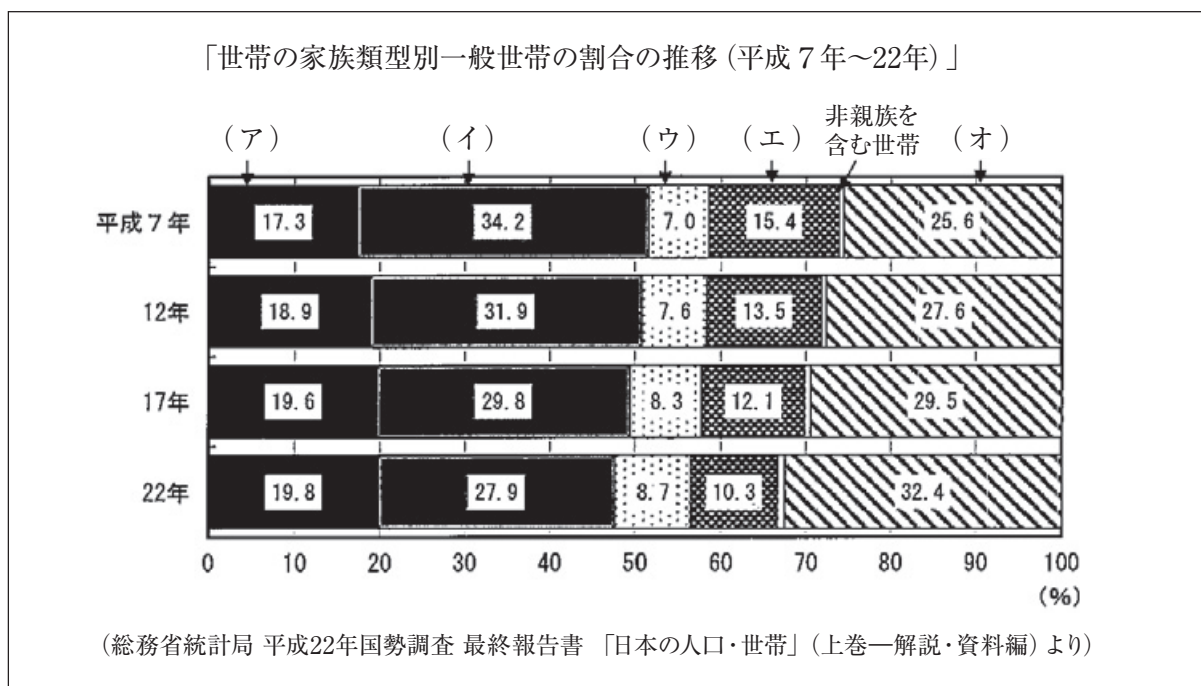
幼稚園、保育所等のうち、以下の機能を備え、認定基準を満たす施設は、都道府県知事から「認定こども園」の認定を受けることができます。

- ① (ア) の子どもに (イ) ・ (ウ) を提供する機能
② 地域における (エ) を行う機能

【語群】

A) 育児 B) 保育 C) 幼児教育 D) 初等普通教育 E) 介護
F) 子育て支援 G) 研修 H) 3歳未満 I) 就学前 J) 就学後

(3) 次の図は、「世帯の家族類型別一般世帯の割合の推移(平成7年～22年)」を表している。図中の(ア)～(オ)は、家族類型の名称を示している。(イ)と(オ)にあてはまるものを下のA～Eから選び、記号で答えよ。



- A) ひとり親と子どもからなる世帯
B) 夫婦のみの世帯
C) 単独世帯
D) 夫婦と子どもからなる世帯
E) 核家族以外の世帯

(4) 仕事と生活の調和について、次のア、イの問いに答えよ。

ア 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」（内閣府 仕事と生活の調和推進官民トップ会議 平成22年6月）に、「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」として、具体的に次の3つが記されている。空欄①～④にあてはまる語句として最も適切なものを下の語群A～Jより選び、記号で答えよ。

- ・就労による（ ① ）が可能な社会
- ・（ ② ）で豊かな生活のための（ ③ ）が確保できる社会
- ・多様な（ ④ ）・生き方が選択できる社会

【語群】

- | | | | | | |
|--------|----------|----------|---------|-------|-------|
| A) 価値観 | B) 働き方 | C) 安心 | D) 健康 | E) 時間 | F) 費用 |
| G) 安全 | H) 精神的自立 | I) 経済的自立 | J) 生活自立 | | |

イ 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）レポート2013」（内閣府 仕事と生活の調和連携推進・評価部会及び仕事と生活の調和関係省庁連携推進会議 平成25年12月）に、「仕事と生活の調和実現の状況と課題」が記されている。目標設定時から2020年の目標値に向けて、「進捗していないもの」を次のA～Dから2つ選び、記号で記せ。

- A) 第1子出産前後の女性の継続就業率
- B) 労働時間等の課題について労使が話し合いの機会を設けている割合
- C) 在宅型テレワーカーの数
- D) 時間当たり労働生産性の伸び率

4 住生活に関する次の4つの文を読み、下の(1)～(4)の問いに答えよ。

- 住まいは、それぞれの地域の気候風土に応じてつくられてきた。(ア) 日本は南北に長く、寒冷な地方から亜熱帯の地方までさまざまな気候があり、これが地域の住まいに影響を与えてきた。
- 建物内部の環境を決定する要素としては、面積、容積、高さ、形状などの建物の空間的要素と、熱、空気、(イ) 音、光、水などの物理的・化学的な環境要素があげられる。
- 住まいの空間を考えると、おもに平面図が使用される。平面図は、建築の設計図の一つであり、(ウ) 使用する記号や線の太さ、記載事項などについてJIS（日本工業規格）で定められている。
- 戦後、住宅金融公庫法、公営住宅法、日本住宅公団法を柱に、住宅不足の解消や居住水準の向上をめざす住宅政策が進められてきた。しかし、近年の深刻な少子高齢化の進行、人口や世帯人員の減少などの社会状況の変化に対応するため、新たに住生活基本法（平成18年6月8日法律第61号）が制定された。住生活基本法に基づき、政策を推進するための基本的な計画である(エ)「住生活基本計画（全国計画）」（平成23年3月15日 国土交通省）もまとめられた。

(1) 下線部(ア)に関して「冬は寒く雪が多い地域」および「夏は暑く台風が多い地域」にみられる住まいの特徴について、それぞれ2つずつ簡潔に記せ。

(2) 下線部(イ)に関して「騒音に係る環境基準について」（環境省告示第54号 平成24年3月改正）によると、生活環境を保全し、人の健康の保護に資する上で維持されることが望ましい基準について、住居地域においては昼間（ ① ）デシベル以下、夜間（ ② ）デシベル以下としている。空欄①、②に適する数値の組み合わせが正しいものを下のA～Eから選び、記号で答えよ。

	①	－	②
A	5 0	－	4 0
B	5 5	－	4 5
C	6 5	－	5 5
D	5 0	－	6 0
E	4 0	－	6 0

(3) 下線部(ウ)に関して、次に示す平面表示記号(JIS建築製図通則 JIS A 0150)は何を表しているか答えよ。



(4) 下線部(エ)では次の①～④の水準が示されている。空欄A、Bに当てはまる水準を答えよ。
また、「最低居住面積水準」と「誘導居住面積水準」について、それぞれ下線部(エ)に示されている内容に即して説明せよ。

- ① (A)
- ② (B)
- ③ 最低居住面積水準
- ④ 誘導居住面積水準

5 衣生活について、次の（１）～（３）の問いに答えよ。

（１）次の表は、下のＡ～Ｄの繊維の断面及び側面の電子顕微鏡写真である。ア～エの繊維名をＡ～Ｄから１つずつ選び、記号で答えよ。

著作権保護の観点により、本写真を掲載いたしません。

出典：一般社団法人 化学繊維技術改善研究委員会 ホームページ
「繊維素材のデータベース」

（一般社団法人化学繊維技術改善研究委員会「繊維素材のデータベース」より）

【繊維名】	A 綿	B 麻(亜麻)	C 毛(羊毛)	D 絹
-------	-----	---------	---------	-----

（２）次の は、繊維の燃焼性実験を行う際に生徒へ示すプリントの一部である。下のア、イの問いに答えよ。

〔 器具 〕 ピンセット、ガスバーナー、点火具、シャーレ

〔 準備 〕 試料とする布を 1 cm × 10 cm に切る。

〔 方法 〕 ・ガスバーナーの炎を細く小さく出し、淡青色に近づける。

・試料をピンセットでつまみ、静かに炎に近づけていきながら、それぞれの試料について、次の①～⑤の項目を観察する。

〔 観察項目 〕

① 炎に近づけて、収縮や溶融などの変化があるか。

② 炎の中に入れて燃えるか、燃焼速度、炎の色、煙の状態はどうか。

③ (a)

④ (b)

⑤ (c)

ア 空欄 a ～ c に入る適切な観察項目をそれぞれ簡潔に記せ。

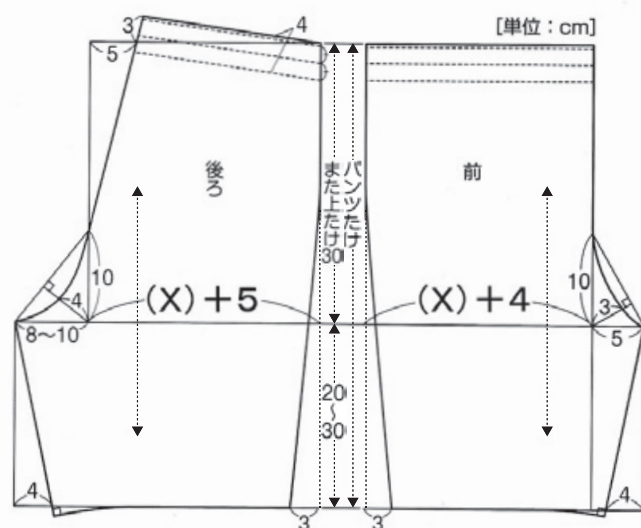
イ 安全に実験を行うという観点から試料として合成繊維を用いる場合、特に留意しなければならないことについて合成繊維の燃焼時の特徴に触れながら生徒に指導する。その内容を簡潔に 2 つ述べよ。

- (3) 次の は、被服製作実習を行う際に生徒へ示すプリントの一部である。下のア～エの問いに答えよ。

題材 「ハーフパンツ」

■ 型紙をつくる

- ① 採寸する。
- ② 模造紙に右図のように製図する。
- ③ 模造紙から型紙を切り取る。



■ 裁断・しるしつけ

- ① 着用・洗濯後に変形のある布を使用する場合は、裁断をする前に（ A ）をする。
- ② 布を（ B ）に二つ折りにして、型紙を配置し、まち針をうつ。
大柄な布や方向性のある柄の布の場合は（ C ）をする。
- ③ （ D ）の分量を取り、断ち切り線のしるしをつける。
- ④ 裁ちばさみを用いて、裁ち切り線どおりに布を裁断する。
- ⑤ 布の間に布用両面複写紙をはさみ、（ E ）を用いて出来上がり線のしるしをつける。

ア 図中のXに適する数式を次のa～dから1つ選び、記号で答えよ。

- a) 胴囲 ÷ 2 b) 腰囲 ÷ 2 c) 胴囲 ÷ 4 d) 腰囲 ÷ 4

イ 空欄A～Eに適する語句を答えよ。

ウ 裁断・しるしつけの④の工程について、断ち切り線どおりに布を裁断するための裁ちばさみの使い方の留意点を簡潔に2つ述べよ。

エ 裁断・しるしつけの⑤の工程について、角のしるしのつけ方の留意点を簡潔に述べよ。

6 次の指導計画について、下の（１）、（２）の問いに答えよ。

■題 材 名 :「食生活を振り返ろう」

■対 象 生 徒 : 中学校 第１学年 40名

■題材の目標 食事の役割と中学生の栄養の特徴について理解を深めるとともに、自分の食生活に関心をもち、健康に良い食習慣について考え、工夫することができる。

■題材の指導計画 (総授業時数8時間)

第１次 食生活を振り返ろう 2時間

第２次 栄養素のはたらきと食品との関係を知ろう 4時間

第３次 中学生の栄養の特徴を知ろう 2時間

〔第１次の指導と評価の計画〕

時	ねらい(◎) 及び学習活動(・)	指導上の留意点	評価規準・方法
1	◎(ア) 食事が果たす役割を理解する。 ・ 小学校の学習を振り返る。 ・ 食事の場面を思い出しながら、食事の役割について考え、発表する。	・ 小学校での食事の学習を振り返らせる。 ・ 食事場面が写っているVTRを視聴させ、食事の役割について考えさせる。	・ 食事が果たす役割について理解している。 ＜ペーパーテスト＞ (知識・理解) ・ 食事の役割について考えようとしている。 ＜授業中の態度・発言＞ (関心・意欲・態度)
2	◎心身の健康によい食習慣について考えることができる。 ・ 栄養のバランスがよい食事をとることの大切さを知る。 ・ 1日3食を規則正しくとることの必要性を理解する。 (イ)	・ 体に必要な栄養素を摂取するために食品をバランスよく食べることが大切なことを知らせる。 ・ 規則正しい食事が生活のリズムをつくり、健康な体になることを知らせる。	・ 栄養のバランスがよい食事や規則正しい食事が大切であることを理解している。 ＜ペーパーテスト＞ (知識・理解) ・ 自分の食生活に関心をもち、健康によい食習慣について考え、工夫している。 ＜ワークシート＞ (工夫・創造)

(1) 下線部 (ア) にある食事の役割を 5 つ答えよ。

(2) 「心身の健康によい食習慣」について 1 時間 (50 分) で指導する。どのような授業を計画するか、空欄 (イ) で行う学習活動について具体的に述べよ。

- 7 次の文章は、中学校学習指導要領 (平成20年 3 月告示)「第 2 章 第 8 節 技術・家庭」の家庭分野の内容に示されている「B 食生活と自立」とその内容の取扱いの一部である。文中の空欄①～⑤に入る語句を、学習指導要領に示されたとおりに答えよ。

B 食生活と自立

(1) 中学生の食生活と栄養について、次の事項を指導する。

ア 自分の食生活に関心をもち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康によい食習慣について考えること。

イ 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考えること。

(2) 日常食の献立と食品の選び方について、次の事項を指導する。

ア 食品の (①) や中学生の 1 日に必要な食品の種類と概量について知ること。

イ 中学生の 1 日分の (②) を考えること。

ウ 食品の (③) を見分け、用途に応じて選択できること。

3 内容の取扱い

(2) 内容の「B 食生活と自立」については、次のとおり取り扱うものとする。

ア (1) のイについては、水の働きや (④) についても触れること。

イ (2) のウについては、主として調理実習で用いる生鮮食品と (⑤) の良否や表示を扱うこと。